「日々の理科」（第 403 号） 2015（H27),-8,10

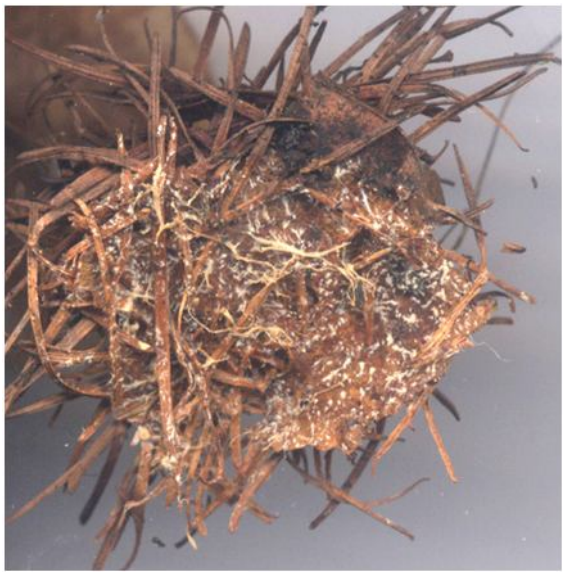
# 「妖精の輪（３）」

お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋

菌輪を形成するとされる「モリノカレバタケ」は、広葉樹林に混交樹林にも発生する。北軽井沢の植生は、カラマツとブナ科樹木（クリ・コナラ・ミズナラが多い)、それにシラカバが主である。特に稀なキノコではなく、夏から秋にどこでも見られる。しかし、「菌輪を形成する」ということを意識して探したことはなかった。まずは、私の（ボロ）山荘の裏庭から探してみた。山荘は超中古のボロ小屋だが、敷地だけは 400 坪もあり、キノコもたくさん発生する。

これが山荘の裏庭。カラマツ、アカマツ、シラカバ、クリなどの樹木の混交樹林。草刈をさぼっている。

さっそく、モリノカレバタケがあった。しかし、子実体は２本だけで、菌輪らしき構造は見られない。私は地面の下にある菌体（菌糸の集まり）を見たいと思い、子実体を土ごと掘り起こしてみた。右上の写真はモリノカレバタケの根元を掘って、下から撮影したものである。カラマツのような油分の多い落葉にも、菌糸をしっかり伸ばしていることに驚いた。これが菌輪を形成する地中の菌体の正体ということになる。



探し回るうちに、ついに菌輪を発見した。大小 20 個ほどのキノコ（すべてモリノカレバタケ）が、直径 2 メートルほどの輪になって発生している。残念ながら、妖精が踊る姿は見えなかった。

興味深いのは、菌輪の内部に草（植物）が少ないということである。明らかに植生の境界線ができている。これは、菌体がつくりだす成分（化学物質）が、植物の生育を阻む為である。キノコの種類によっては、逆に植物の生育が良くなる場合もあるという。

こんなに身近な場所にあるのだから、よく探せば、いろいろな種類の菌輪が、たくさん見つかるだろう。